

平成22年度 事業報告書

自 平成 22年 4月 1日

至 平成 23年 3月 31日

公益財団法人山形美術館

山形美術館 平成 22 年度事業報告

概要

平成 22 年度の公益事業は、春の「ロシアの夢 1917-1937」展、夏の「親鸞」展、秋の「山下清」展、3 県展など 8 つの企画展事業と、「印象派の光」と「新収蔵品展」の収蔵品展・常設展の収蔵品展事業、および美術に関する創作活動を行っている個人・団体に対する 25 の展示施設貸与事業を行った。さらに収蔵品を活用した事業への協力、収蔵品の修復を実施した。

これら公益事業関連の展覧会総入場者数は 102,045 人となった。昨年度 114,489 人と比較すると、企画展事業と収蔵品展事業で 1,348 人の減少、展示施設貸与事業で 11,096 人の減少となり、合計で 12,444 人の減少となった。

収益事業では、企画展に合わせた喫茶室のメニューの提供やミュージアムグッズ取扱商品の更新を実施した。

法人運営および施設管理では、公益財団法人への認定申請を行い認定証の交付を受けた。

1. 公益事業

①企画展事業

山形県民はじめ広く美術愛好者に国内外の優れた美術作品および関連資料を鑑賞する機会を提供する事業を行った。

4月3日—5月9日 ロシアの夢 1917-1937 ロシア・アヴァンギャルド 絶たれた疾走、甦る造形のヴィジョン

1917 年のロシア革命を機に、美術、文学、演劇、映画、建築と多彩な分野で展開した前衛芸術運動「ロシア・アヴァンギャルド」の軌跡をたどる展覧会。新しい生活の建設を担おうとした芸術家たちが手がけた、映画ポスター、グラフィカルな雑誌や絵本、舞台衣装、建築スケッチ、家具、陶器など 208 点を 4 部構成で紹介した。なかでも運動を牽引したタトリンの立体作品、構成主義のロトチェンコの家具が来館者の注目を集めた。

会期中、東北芸術工科大学との共同主催による関連イベント「アヴァンギャルドって何?」を実施。4 月 22 日八東はじめ芝浦工業大学教授による「ロシア・アヴァンギャルド建築・希望の時間」(会場芸工大)、29 日中村唯史山形大学准教授、近藤一弥東北工大教授によるミュージアム・スクールと題した講演を実施。またユートピア・ワークショップと題し、5 月 1 日坂東慶一、和田菜穂子氏(ともに芸工大准教授)による「モバイルをつくろう! 造形のワークショップ」、4 日には珍しいキノコ舞踊団主宰者の伊藤千枝氏による「からだと遊ぼう! 身体表現のワークショップ」を開催。さらに 4 月 17 日と 5 月 8 日に担当学芸員によるギャラリートークなど、ロシアが夢見たユートピアを展示と教育普及事業により多角的に探った。

7月22日—8月1日 岩橋崇至 山の世界展

山岳写真家・岩橋崇至氏が長年追い続けている北アルプスをはじめ、アメリカ中西部のロックガーデン、中国と北朝鮮の国境地帯にある白頭山などで撮影した写真を巨大パネルにより 136 点を展示。岩橋崇至氏が捉えた自然が作り出す不思議な造形や景色、四季の花など、自然の厳しさと優しさを紹介した。7 月 23 日から 25 日に岩橋氏によるギャラリートーク、また展覧会に先立ち 6 月 12 日と 13 日に岩橋氏指導のもと、美術館周辺で小学生の親子を対象としたワークショップ「岩橋崇至先生の親子でチャレンジ写真塾」を実施。対象の捉え方や写真の選び方を学んだ成果を 1 階ロビーに展示した。

8月4日—8月29日 親鸞聖人750回忌記念「親鸞展」

七百五十回忌を迎え今なお多くの人びとの心を引きつける浄土真宗開祖・親鸞の人間像と生涯を紹介した。戦乱や飢饉が相次ぐ中世に生まれた親鸞の生涯を、比叡山での修行時代、師僧・法然との出会い、結婚、越後への流罪、晩年の関東での布教など、7 部構成でたどった。

親鸞ゆかりの寺室や映像約 120 点を展示した中で、「聖徳太子絵伝」(重要文化財)、京都東本願寺園林堂本尊「阿彌陀如来立像」などが来館者の注目を集めた。山形市出身の大阿闍梨・光永覚道の「千日回峰行」を紹介するコーナーを設け、12 日に同氏による講演会を開催。8 月 20 日作家五木寛之氏講演会「いまを生きる力」が市内で開催、22 日には松尾剛次山形大学教授によるギャラリートークを実施するなど、多面的に親鸞の生涯を紹介。親鸞が生きた乱世と現代を重ね、現代に生きるわれわれの心のありよう

を考える機会とした。

9月4日—9月20日 第65回山形県総合美術展

山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門にあわせて709点が搬入された。土屋禮一(日本画)、絹谷幸二(洋画)、一色邦彦(彫刻)、豊福誠(工芸)の4氏によって厳正な審査が行われた。

会場には、入賞・入選、審査員、委嘱、無鑑査の作品、さらに東北芸術工科大学の教員の作品を合わせ479点を展示した。部門を超えて活躍する作家や、東北芸術工科大学代との交流による新鮮な作品が目立った。今年で52回を数えることも県展には、12,587点の応募があった。滋賀大学教育学部教授・新関伸也氏の審査による入賞・入選作716点を展示。幅広い多くの県民を対象とし、秋の芸術シーズンの到来を告げる展覧会となった。

9月25日—10月3日 第35回山形県総合書道展

第35回県書展には、漢字・かな・調和体・近代詩文・少字数・刻字・篆刻の7部門に、高校生から90歳代まで幅広い年代の書家・書道家から、一般公募作品465点と役員および会友の作品392点をあわせ857点が搬入された。35回を記念して、新井光風日展理事を審査員長に迎え、県内の植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、大越松峰、秋葉煌洋、斎藤菫園、渡部梅祥の8氏による審査の結果、県知事賞をはじめとする入賞13点、奨励賞15点、褒状30点と入選330点が厳正に選抜された。

会場には入賞・入選作と審査員、役員、会友の作品を加え741点を展示。杜甫、李白、白楽天の漢詩をみずみずしい線で表現した漢字作品、郷土ゆかりの文学者の作品をつづった調和体作品、漢字一文字を大胆に表現した力作など、伝統に基づきながら独自性を追求した多彩な作品が各部門に見られた。9月25日には、開展式に引き続き、植松弘祥氏による作品解説会、10月3日には山形市出身の美術評論家・菅原教夫氏による特別講演会「書、来し方、行く末」を実施した。さらに35回を記念し本展覧会展示作品を掲載した作品集を刊行。本県書壇の現時点の力量と将来への展望を示すものとなった。

10月23日—11月28日 放浪の天才画家 山下清展

豊かな色彩感覚と驚異的な記憶力で、独自の貼り絵を生み出した山下清の画業を紹介した。代表的な貼り絵を中心に、油彩や水彩、素描、陶芸などの作品に加え、日記などの資料あわせて150点を展示。とくに修復を終えて甦った代表作「長岡の花火」や遺作となった「東海道五十三次」シリーズは注目を浴びた。

11月13日に清の甥で作品管理事務局代表の山下浩氏による記念講演会「家族が語る山下清」、14日にはちぎり絵作家梅津郁子氏によるちぎり絵ワークショップ、21日には山下清の8点の作品の修復を手がけた修復家岩井希久子氏による記念講演会「修復家の見た山下清」、さらに10月31日、11月7、23、28日には、担当学芸員によるギャラリートークを実施。「日本のゴッホ」と賞賛された山下清の作品の魅力を紹介した。

12月17日—23年1月30日 生まれるイメージ2010

山形ゆかりの現代美術家を紹介する目的で、2005年、2007年に引き続き3回目となる本展では、阿部岳史(インスタレーション)、阿部亮平(絵画)、石井博康(絵画)、大沼洋美(写真)、木原正徳(絵画)、鴻崎正武(絵画)、小林俊介(絵画)、長里子(版画)、中村桂子(版画)、松山隼(絵画)、10名による87作品を展示。ガーゼでつくった15センチ四方の立方体256個を規則正しく天井から吊るした作品、版画と版木を併置した作品、自然光を取り入れた空間で絵画を床面に設置し、絵画の在り方を考えさせる作品など、それぞれの作家の取り組みを紹介した。また12月18日、1月16日、30日に出品作家によるギャラリートークを実施し、来館者との交流を促す機会とした。

2月24日—3月21日 第45回山形県写真展

山形県内の写真愛好家を対象とする本展には、高校生から90歳までの660人から2,264点の一般公募作品が搬入された。今回よりインクジェットプリントを受け付け、サイズを統一するとともに、受付から5年目となるデジタルカメラによる作品は65パーセントに達した。2月13日、昨年度に引き続き日本写真協会理事齋藤康一氏を審査員にまねぎ公開審査を行った。撮影時の意識、写真のトリミング、画面の対象の強弱などのアドバイスがあった。

会場には、入賞13点、準入賞10点、努力賞11点、入選661点に、審査員、無鑑査作品を加えた716点を展示。祭りの人びとの表情を切り取った作品、スポーツの一こま、長年取り組んでいる対象、四季の風物詩、家族の姿、動植物などの力作が並んだ。

②収蔵品展事業

山形美術館では、フランス近代美術、日本の美術、山形県関係美術を3本柱に美術作品および関連資料の収集と調査研究を進めている。これら収蔵品の一部を常設展示しているほか、22年度には以下のテーマ展を開催し、収蔵品を紹介した。

6月3日—7月19日 吉野石膏コレクション 印象派の光

吉野石膏コレクションの作品のうち、モネ、ルノワール、ピサロ、シスレーら印象派の光に対する繊細な感受性がうかがえる作品を4部構成38点により紹介した。作品選定や展示構成、印刷物作成は、山形大学大学院地域教育文化研究科の文化コーディネーター実習生ら4名が担当。6月19日に光をテーマとしたワークショップ「光のはこをつくろう」、6月26日および7月17日にはギャラリートークを実施し、絵画における光の描写や光の体験などを通じて、光の表現の魅力を探った。

12月17日—1月30日 新収蔵品展

2008年度以降当館の収蔵品に加わった作品、高嶋祥光、椿貞雄、櫻井浜江、佐藤勤、太田三郎、佐藤朝山、加藤朝美、高橋敬典、佐藤正巳らの作品47点を展示。2010年度文化功労者に選ばれた米沢市出身の写真家・細江英公の作品4点もあわせて展示した。

収蔵品展事業による、本年度新収蔵品は寄贈5件である。佐藤正巳氏より乾漆技法による壺などの漆芸作品5件を受贈した。今期末での収蔵品件数は、基本財産収蔵品の一般正味財産(購入)505件、指定正味財産(寄贈)969件、合計1,474件となった。

③展示施設貸与事業

美術に関する創作活動を行っている個人および団体に対し、当館の展示室と展示用備品を貸与する事業を行った。

22年度は、日展山形会展、山形県水彩画会展、北展、上の畑虎復興30周年記念瓢堂の世界展、示現会山形展、布施美津子個展、毎日書道展東北山形展、読売書法展東北展、山形市芸文協総合展、墨華会書道展、山形大学造形芸術コース卒業修了制作展、山形県健康福祉祭美術展、山形デザイン専門学校卒業進級制作展など、25の展覧会を開催した。

④その他

収蔵品を活用した事業や指導、作品の修復措置など以下の事業を行った。

1. 収蔵品館外貸出による他機関への協力

「絵画にみる江戸時代のみやぎ」展(東北歴史博物館)、「伝統とエスプリ 20世紀フランス絵画の精髓」(七戸町立鷹山宇一記念美術館)、「没後120年 ゴッホ展」(国立新美術館ほか)、「セーヌの流れに沿って 印象派と日本人画家たちの旅」(ブリヂストン美術館ほか)など、他機関の企画展開催時への収蔵品貸出により協力を行った。

2. 山形大学院生の受け入れと指導

山形大学大学院地域教育文化研究科が外部機関と連携し実施する「文化コーディネーター実習」のうち、造形コース専攻の学生4名を前期(のべ10日間)に受け入れ、企画展および教育普及事業の立案・実施について指導した。

3. 博物館実習生の受け入れと指導

東北芸術工科大学13名、桜美林大学1名の14名を、企画展展示設営時(のべ5日間)に受け入れ、作品展示の方法、美術館の機能と業務概要、資料の保存管理、地域における美術館のあり方などについて指導した。

4. 美術教育普及活動(チルドレンズ・アート・ミュージアム)への協力

山形青年会議所が平成18年度から開始した子どもを対象としたプログラムを7月18日に実施した。参加した子どもたちが、講習を受けたアートナビゲーターらの指導により美術鑑賞のマナーと絵の見方を体験、その後3階で鑑賞作品をもとに絵を描くなど造形教育の試みを行った。

5. 収蔵品の修復

3点の修復を実施した。桜井浜江「壺」(1947年制作、1991年収蔵)、菅野矢一「自画像」(1923年制作、1991年収蔵)の油彩画には経年による支持体と絵具層の剥落、新海竹蔵の木彫「半跏像試作」(1952年制作、1968年収蔵)には表面層の亀裂と剥離・剥落が生じ、それぞれ鑑賞および保存管理上の困難が生じていた。このたび東北芸術工科大学との共同調査に基づき、同校芸術学部美術史・文化財保存修復学科教授森義直、藤原徹両氏の指導のもと、同科学生による修復処置を実施した。作品個々の状態に最適な処置を検討実施し、作品本来の安定性と造形性を回復するとともに、作家の技法上の特質を理解する機会となった。

2. 収益事業

来館者を対象に美術館における豊かな時間を過ごしてもらえるよう、山形城址が眺められる喫茶室では、季節ごとのメニューの更新や、企画展にあわせたセットメニューを提供した。

美術関係の書籍やグッズを販売するコーナーにおいて、山形ゆかりの工芸作家による銀アクセサリーや陶器作品を取り扱った。

3. 法人運営および施設管理

「山形美術館 新公益法人移行検討委員会」で検討を重ね、理事会・評議員会での承認に基づき、12月1日に公益財団法人への認定を申請し、3月24日に公益財団法人の認定交付を受けた。新年度より新体制のもと館運営をスタートすることになった。また本年度、展示室系統空調機の冷温水配管設備の更新工事を行った。

平成22年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

【企画展】

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
ロシアの夢 1917-1937	4月3日～ 5月9日	1,702	642	92	828	3,264	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、ロシア連邦大使館、ロシア連邦文化協力庁、ムトハザカゴ AG、ムトハザドイ航空会社、東北芸術工科大学	4月22日八東はじめ氏による記念講演会、29日中村唯史氏および近藤一弥氏によるミュージアム・トーク、5月1日/4日にワークショップ、4月17日、5月8日担当学芸員によるギャラリートークを実施。
吉野石膏コレクション 印象派の光	6月3日～ 7月19日	2,009	494	355	1,936	4,794	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	山形大学大学院地域教育文化学研究科の協力を得て6月19日ワークショップ、6月26日、7月17日ギャラリートークを実施。
岩橋崇至 山の世界展	7月22日～ 8月1日	986	35	73	759	1,853	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、IWAHASHI ROCKIES FORUM、山形市、山形県写真連盟、日本山岳会ほか	6月12日/13日ワークショップ「岩橋崇至先生の親子でチャレンジ写真塾」を実施。
親鸞聖人750回忌記念 親鸞展	8月4日～ 8月29日	10,465	117	323	1,853	12,758	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、県芸術文化会議、市芸術文化協会、NHK山形放送局	8月12日山形市出身の大阿闍梨・光永覚道氏の講演会、8月22日山形大学人文学部教授・松尾剛次氏のギャラリートークを開催。
第65回山形県 総合美術展	9月4日～ 9月20日	4,783	269	1,162	2,434	8,648	山美、山新、山放、県美術連盟、山形県、県生涯学習文化財団、市教委、県芸術文化会議、県造形教育連盟、べんてる株式会社	土屋禮一(日本画)、網谷幸二(洋画)、一色邦彦(彫刻)、豊福誠(工芸)の4氏による審査。こども県展を併催。
第35回山形県 総合書道展	9月25日～ 10月3日	472	12	69	1,638	2,191	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、山形県総合書道会、山形県書道連盟、県芸術文化会議	植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、大越松峰、秋葉燦洋、斎藤富園、渡部梅祥ら8氏に加え、特別審査員・新井光風氏による審査。
放浪の天才画家 山下清展	10月28日 ～11月28日	14,834	500	1,649	3,150	20,133	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、県芸術文化会議、市芸術文化協会、山下清作品管理事務局	11月13日山下浩氏21日岩井希久子氏による特別講演会、10月31日、11月7日/23日/28日担当学芸員によるギャラリートーク、11月14日ちぎり絵ワークショップを実施。
生まれるイメージ 2010	12月17日 ～1月30日	548	175	20	790	1,533	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	12月18日、1月16日/30日出品作家によるギャラリートーク開催。
第45回山形県 写真展	2月24日～ 3月21日	1,241	35	31	2,242	3,549	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、山形県写真連盟	齋藤康一氏による公開審査。
企画展 計(A)		37,040	2,279	3,774	15,630	58,723		

平成22年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

[収蔵品展など]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考	
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計			
新収蔵品展	12月17日 ～1月30日	548	175	20	790	1,533			
常設展示のみ ・巨匠の広場 ・吉野石膏コレクション室 ・新海竹太郎/竹蔵彫刻室 ・長谷川コレクション室 ・彫刻の小部屋	5月12日～ 5月16日	121	6	73	11	211			
	5月19日～ 5月30日	1,996	9	-	766	2,771			
	5月26日～ 5月30日	513	7	3	558	1,081			
	6月1日	30	-	-	3	33			
	6月26日～ 7月4日	1,066	133	75	858	2,132			
	7月14日～ 7月18日	266	31	5	884	1,186			
	10月7日～ 10月11日	305	9	40	2,232	2,586			
	10月13日 ～10月17日	102	-	2	14	118			
	10月24日	7	-	1	-	8			
	10月20日 ～10月24日	215	-	37	1,791	2,043			
	11月30日 ～12月12日	109	28	3	107	247			
	2月2日～ 2月20日	229	63	42	56	390			
	収蔵品展計(B)		5,507	461	301	8,070	14,339		
	館主催展計(C=A+B)		42,547	2,740	4,075	23,700	73,062		

平成22年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

〔館利用グループ展など〕

事業名	期間	一般	入場者数				主催、共催、後援など	備考
			高・大生	小・中生	会員・招待	計		
東部謙慎書道展	5月12日～ 5月16日	1,114	-	-	-	1,114	謙慎書道会東部地区実行委員会	
春光会展	5月19日～ 5月23日	905	-	-	-	905	春光会	
日展山形会展	5月19日～ 5月30日	1,996	9	-	766	2,771	日展山形会、山形新聞、山形放送	
山形県水彩画会展	5月26日～ 5月30日	513	7	3	558	1,081	山形県水彩画会	
創琢書道展	6月3日～ 6月6日	619	-	-	-	619	創琢書道会	
北展	6月9日～ 6月13日	298	124	20	367	809	東北現代美術協会	
霽友会書道展	6月10日～ 6月13日	431	-	-	-	431	霽友会	
上の畑焼復興30周年記念 瓢堂の世界展	6月16日～ 6月20日	776	-	-	-	776	上の畑焼陶芸センター	
山形県民 ふれあい書道展	6月26日～ 7月4日	1,066	133	75	858	2,132	山形県民書道会	
櫻墨書院展	7月7日～ 7月11日	916	-	-	-	916	櫻墨書院	
示現会山形展	7月14日～ 7月18日	266	31	5	884	1,186	示現会山形支部	
葉っぱの会 押し花作品展	7月15日～ 7月19日	827	-	-	-	827	葉っぱの会	
題無しの作品展 布施美津子個展	7月16日～ 7月19日	1,239	-	-	-	1,239	布施美津子	
毎日書道展 東北山形展	10月7日～ 10月11日	305	9	40	2,232	2,586	毎日新聞社、毎日書道会	
北展(公募)	10月13日 ～10月17日	360	6	11	423	800	東北現代美術協会	
山形市芸文協 総合展覧会	10月13日 ～10月17日	744	-	-	-	744	山形市、市教委、市芸術文化協会	
読売書法展 東北展	10月20日 ～10月24日	215	-	37	1,791	2,043	読売新聞社、読売書法会	
MOA美術館山形県 児童作品展	10月30日 ～10月31日	1,367	-	-	-	1,367	MOA美術館山形県児童作品展実行委員会	
翔龍会全国書道展	11月4日～ 11月7日	463	-	-	-	463	翔龍会	

平成22年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
墨華会 書道展	12月2日～ 12月5日	1,260	-	-	-	1,260	墨華会	
東邦書道会全国展	12月9日～ 12月12日	704	-	-	-	704	東邦書道会	
山形大学美術科 卒業修了制作展	2月2日～ 2月6日	639	-	-	-	639	山形大学地域教育文化学 部文化創造学科造形芸術 コース	
誠筆書展	2月3日～ 2月6日	1,082	-	-	-	1,082	誠筆会	
山形デザイン専門学校 卒業進級制作展	2月16日～ 2月20日	924	-	-	-	924	山形デザイン専門学校	
山形県健康福祉祭 美術展	2月17日～ 2月20日	1,565	-	-	-	1,565	山形県、山形県社会福祉 協議会、山形県老人クラ ブ連合会	
館利用グループ展計 (D)		20,594	319	191	7,879	28,983		

全展覧会 総計 (E=C+D)		63,141	3,059	4,266	31,579	102,045		
-----------------------	--	--------	-------	-------	--------	---------	--	--

平成 22 年度新収蔵品リスト

平成 23 年 3 月 31 日現在

○寄贈

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
佐藤正巳	乾漆白堆大扁壺	昭和期	乾漆	34.5×29.5×10.0
佐藤正巳	乾漆卵殻螺鈿方形文扁壺	昭和期	乾漆	24.5×23.0×9.0
佐藤正巳	乾漆卵殻象嵌捻文壺	昭和期	乾漆	34.0×18.0×15.0
佐藤正巳	乾漆卵殻象嵌蝶文踏形扁壺	昭和期	乾漆	17.5×19.0×17.5
佐藤正巳	乾漆小壺	昭和期	乾漆	14.0×12.5×11.5

※以上の美術品 5 件を基本財産収蔵品(不可欠特定財産)とする。

平成 22 年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借受館又は借受者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
横山華山 東 東洋	紅 花 屏 風 金 華 山 ・ 松 島 図	東 北 歴 史 博 物 館	絵画にみる江戸時代のみやぎ 一名所と人々展	4/13-6/11
ピカソ ルノワール ほか	青い背景の婦人像 赤いブラウスの若い女 など61点	七戸町立鷹山宇一記念 美術館	伝統とエススプリ 20世紀フランス絵画の精髓	4/21-6/9
佐藤昌祐	らくだのある静物	蒼 騎 会	第50回記念 蒼騎展	6/1-7/8
ピサロ	モンフォーコーの冬(雪景色)	サトリー・ミュージアム[天保山]	印象派とモダンアート展	6/29-9/26
ブーダン ルノワール	アブヴィル近くのソム川 森の小道	府 中 市 美 術 館	バルビゾンからの贈りもの一 至高なる風景の輝き	9/11-11/29
シスレー	モレのポプラ並木	国 立 新 美 術 館 九 州 国 立 博 物 館 名 古 屋 市 美 術 館	没後120年 ゴッホ展	9/26-4/19
モネ	ジヴェルニー付近の リメツの草原	北九州市立美術館 Bunkamuraサ・ミュージアム 岡 山 県 立 美 術 館	モネとジヴェルニーの画家たち	9/26-4/15
太田三郎	パリの種子袋1998	福島現代美術ビエンナーレ 実行委員会	福島現代美術ビエンナーレ	10/4-10/25
モネ	ヴェルノン教会の眺め	ブリヂストン美術館 ひろしま美術館	セーヌの流れに沿ってー印象派 と日本人画家たちの旅	10/11-3/11
円山応挙	雪中竹梅狗子之図	山寺芭蕉記念館	芭蕉と江戸時代展	10/11-12/7
ゴッホ ほか	雪原で薪を集める人びと など38点	新 潟 日 報 社 新 潟 三 越	吉野石膏コレクション フランス近代絵画 ～印象派からピカソまで～	12/21-1/18
長沢芦雪	富士見西行図	MIHO MUSEUM	長沢芦雪 奇は新なり	2/16-
月 儼 清原雪信	仙人図屏風 西王母・牡丹図	府 中 市 美 術 館	江戸の人物画ー姿の美、力、奇	3/10-